

〔類聚名義抄^八〕**蓴**、蓴、下正音純、水葵、マナハ、

〔八雲御抄^三〕**蓴**、うきぬなは、ねぬ、一説こもくろめをも云り

〔下學集^下〕**蓴**、晋張翰因秋風起思吳中蓴菜羹鱸魚膾也

〔日本釋名^下〕**蓴**、ぬは沼也、なは、繩也、沼の内にありて、くき長して繩の如し、

〔東雅^{十三}〕**蓴**、ヌナハ、倭名鈔に、玉篇蘇敬本草注等を引て、蓴はヌナハと註せり、莖長く繩を延べし如くにして、涎滑なるをいふなり、

〔倭訓栞^{前編二十一}〕ぬなは、新撰字鏡に、蓴をよめり、沼繩の義也、俗に蓴菜の音をもて呼べり、根ぬなはともよびくれば、そといひかけたり、又所によりて銅拍子^{ドヒヤウシ}とよべるは、其葉の形の似たるをもてよべる也、池に浮て生ふるものなれば、歌に多くうきぬなはとよめり、

〔本朝食鑑^三〕**蓴**、和名奴奈波、今亦同、或如字加菜字而稱之、

集解處處湖澤雖儘有之而不多、惟江州琵琶湖多有而肥美、味亦佳、葉如荇菜而差圓形似馬蹄、每浮于水上、其莖紫色、大如荇莖而柔滑、三四月稚蓴生芽時、煮之則莖上著凝粘如煮葛粉、其味稍佳、夏月開

黄花結實、青紫色、大如小棟子、中有細子、子墜于水中而自生也、凡蓴作羹可食耳、

〔重修本草綱目啓蒙^{十六}〕**蓴**、ヌナハ、沼ニ生シテウキヌナハ、古歌、ネヌナハ、同、上、ジユンサ、イ、中、

池澤中ニ生ズ、葉ノ形橢ニシテ深綠色、厚シテ光リアリ、莖ハ葉ノ中央ヨリ出、葉ハ水面ニ浮ビ、根ハ水底ニアリ、故ニ莖長クシテ蔓ノ如シ、莖及葉背ニ涎アリテ水ノ如シ、嫩葉ハ卷テ荷ノ卷葉ノ如シ、春夏採テ食用トス、半夏生ノ候ヲ過ル時ハ、堅クシテ食フニ堪ヘズ、六月ニ花ヲ開ク、紫色ナリ、

〔長生療養方^一〕**蓴**、菜、功能、主消渴、熱痺、多食、動痔、